医療を育てる活動の輪に、あなたもご参加ください。

日本の医療技術の習得や開発は、私たちの、未来の日本のためのものです。外国の施設や善意にいつまでも頼るのではなく、医療の質と安全については、日本国民自らが負うべきではないでしょうか。メリジャパンの趣旨にご賛同いただける方は、寄付、または会員登録、署名など募集していますので、ぜひご協力ください。お問い合わせをお待ちしています。

◆ 会員の種別

会員の種別	特　徴	年会費
正会員	総会議決権を持つ会員です。 運営にも積極的に関わっていただきます。	個人会員　¥5,000 法人会員 ¥10,000
賛助会員	総会の議決権はありません。 活動を支援してくださる方が対象です。	個人会員　¥3,000 法人会員　¥5,000

※正会員・賛助会員ともに入会金は不要です。

ご寄付・ひとさーじ募金について

医療事故や医療過誤をなくし、高度な医療技術の普及をめざす活動を推進するための募金を行っています。

みなさんが、そしてご家族・ご友人がより高度な医療を安心して受けられるよう、医療の質と安全性の向上をめざす活動へのご協力をお願いいたします。

ひとさーじ募金をご希望の方

ひとさーじ募金とは医師の医療技術向上のための「サージカルトレーニング」を支えていただく、定期的な募金システムです。毎月1,000円の継続の寄付により、医師・医療を育てる活動に協力をお願いします。

1,000円は、1回のサージカルトレーニングで、ひとりの医師が着用するガウン・帽子・マスク等の費用に相当します。

お申し込み口数　**1口1,000円**より

法人での寄付・遺贈寄付をご希望の方

事務局までご相談ください。

クレジットカードでのご寄付ができるようになりました!

メリジャパンホームページから、ご寄付お申込みフォームにお入りください。

メリジャパン　寄付　検索

銀行振込での募金・ご寄付ご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込ください。

・名古屋銀行 覚王山支店 普通3312469　口座名:トクヒ)メリジャパン
・三菱東京UFJ銀行 覚王山支店 普通0015826　口座名:トクヒ)メリジャパン
・ゆうちょ銀行 12140 89381881　口座名:トクヒ)メリジャパン
(他行からお振込みの場合はゆうちょ銀行218支店 普通8938188)

※いただきました個人情報は、領収書、活動報告、市民講座のご案内などの送付に使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

※振込手数料は、ご負担いただきますようお願いいたします。

編集後記

メリジャパンは昨年度、名古屋市立大学より運営委託をいただき、整形外科関連セミナー7回、消化器外科関連セミナー1回の開催に携わることができました。

どのセミナーにおいても、先生方が手術手技を習得したいという強い意志を持ち、ご献体者への感謝を忘れず実習をされていることを感じます。ご献体者とご遺族や実習を受けられる先生方、名古屋市立大学のみなさま、セミナーご協力者などの多くの「思い」のおかげでサージカルトレーニングが継続的に実施できています。この場を借りて感謝を申し上げますとともに、今後ともご支援くださいますようよろしくお願いいたします。

MERI Japan

●お問い合わせ先
特定非営利活動法人メリジャパン
〒464-0821名古屋市千種区末盛通2-4　はちや整形外科病院内
電話052-751-8197　E-mail meri_info@hachiya.or.jp
URL http://www.merijapan.org

MERI Japan News

メリジャパンニュース
2018年6月11日発行　VOL. 12 no.1

Information 講演会のお知らせ

腰痛治療を知ろう —原因・治療と手術について—

**厚生労働省の調査によると、日本人の4人にひとりが腰痛に悩んでおり、
年々その数は増加をしていると言われています。
腰痛治療には、リハビリテーションや内服薬、コルセットの装着などの保存療法と、
手術による外科治療など、さまざまな方法があります。
最近は、低侵襲手術という傷口をできるだけ小さくして
患者さんの負担を少なくする手術方法も広まっています。**

**今回は、脊椎(せぼね)の専門医が、腰痛の原因と治療法についてわかりやすくお伝えします。
内視鏡や顕微鏡を用いた低侵襲手術、インスツルメントといわれる金具で背骨に添え木をするように
固定する手術などの説明とともに、外科医がどのように手術の技術を身につけているのかをご紹介します。**

**患者となる私たちが、治療方法を選択できる時代です。
ご自分の望む生活を見据え、自分に合った治療を受けることが、より良い生活に繋がると考えます。
本講演を、みなさんの生活の質(QOL)向上に、ぜひお役立てください。**

講師　名古屋市立大学
医学部整形外科　准教授
水谷 潤 先生

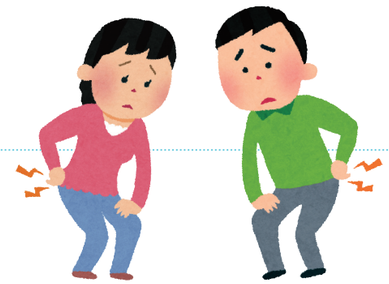
対象
・腰痛でお悩みの方、またはそのご家族
・健康、医療情報にご興味のある方

人数　**40名** 前後
(※申込みが人数に達し次第締め切ります)

日時　**2018年6月30日(土) 10:00~12:00**

場所　NHK文化センター 名古屋教室
〒461-0005 愛知県名古屋市東区東桜1丁目13-3

お問い合せ先　NHK文化センター 名古屋教室
TEL:052-952-7330



The Human 識者に聞く

**安全性を担保した高度な技術で、患者を救いたいという思いから、
国内外の献体を用いた臨床トレーニングに積極的に参加し、
日々手術手技の鍛錬に励む稲波脊椎・関節病院の小松 淳医師。
その豊富な経験から、国内でのキャダバートレーニングの推進のための課題、今後への提言などを語っていただきました。**

稲波脊椎・関節病院
小松　淳
平成13年 順天堂大学医学部卒業／平成27年 順天堂大学医学部大学院修了 同年 福島県立医科大学会津医療センター勤務／平成30年 稲波脊椎・関節病院 勤務

札幌医科大学、名古屋市立大学での キャダバートレーニング

参加希望者が多いメリジャパンの協力による手術手技鍛錬のためのトレーニングに、2015年の札幌医科大学と2017年の名古屋市立大学での2回にわたり参加させていただきました。

札幌医科大学でのセミナーでは講義で、日本においてキャダバートレーニングを始める経緯や今までの札幌医科大学解剖教室の先進的な活動を知ることができました。さらに、行政的な手続きをしながら現在の手術手技のための解剖実習に至ったこと、献体していただく方々へのご理解、ご協力、そして特区構想の一つであり、政治的介入により行政での法改正などについて長年尽力されてきた歴史について講演を受けました。その後、解剖室に移動して、全国の一線で活躍中の先生方から、低侵襲での腰椎椎体間固定術であるXLIF（エックスリフ）や、MIS-TLIF（エムアイエスティーリフ）などの手技について実習を受けることができ、特にXLIFのセッションでは手技のコツや注意点を細かく教えていただけました。

名古屋市立大学でのセミナーの様子

名古屋市立大学でのセミナーは、日本脊椎脊髄病学会認定のXLIF手技講習でもあり、同大学に新設された先端医療技術イノベーションセンターで行われました。1日目は、LIFに必要な解剖やリスク回避のテクニックや周術期管理について講義を受け、参加者による症例検討会がありました。2日目の朝から行われた実習では、手術台、無影灯、Cアーム（X線撮影装置）、電気メス、吸引などの実際の手術室の環境が完備されたサージカルトレーニングセンターで行われました。2人で1献体を使わせていただくことができ、XLIFの手技の基礎から応用まで習得できる濃密な実習となりました。

先行する海外のトレーニング環境と 堅実に進展する国内のトレーニング環境

また、両セミナーとも休日にもかかわらず看護師、レントゲン撮影や透視のために放射線技師の方々にも参加していただき、より実際の手術に近い環境が整った状態が作られました。

札幌、名古屋の講習はともに、国内の著明な先生方より近年導入された実際の臨床でのLIFのテクニック、リスクを抑えるポイントを直接指導していただきました。現実の手術において、手術中にゆっくりと指導を受けることは困難で、どちらとか言えば“見て学べ”的な状態になり、特にXLIFでは、ちょっと“触る”程度がいいところです。もちろん上手な手術手技を何十回、何百回と見ることは大切ですし、5年ぐらい同じ術式を見ていれば、習得できるとは思いますが、やはり人体に触れて、実際に手術をして学ぶことはとても大きいです。“百見は一触にしかず”とでも言えるではないかと思います。実臨床での手術手技の習得は麻酔下の患者さんに対して初めての手術を行っている状態で、さらに上級医師の指導を受けながら少しずつ独り立ちしていくものです。しかし医療技術が高度化し、さらに医療訴訟といった問題に晒される現代では、昔のような指導では十分な安全性を担保できないのも事実です。我々外科医は患者さんを健康にするための手技で、患者さんを不自由な状態にさせないのは当然で、患者さんは健康で治癒して当然であると考えておられます。そこで我々も日々変化する医療技術に対応して、解剖学についてもう一度、

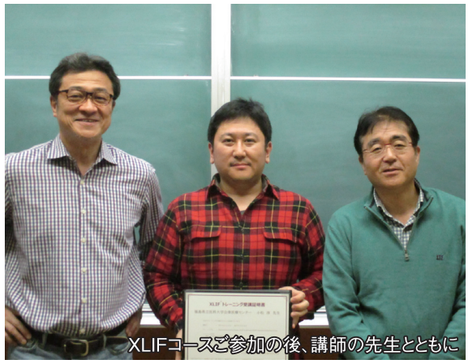
名古屋市立大学でのセミナーの様子（右側が小松医師）

臨床に則して確認する必要がありますし、新しい手技についてはご献体でトレーニングを行うことが重要であると考えます。従来の日本においては感染率が少ないホルマリンで固定されたご遺体で系統解剖（人体の構造を知るために、医学生が実習として行う解剖）が行われ、私も学生時代に実習したことを思い出します。また、他大学で開催されたホルマリン固定のご遺体での手術手技実習に参加した経験がありますが、実際の手術を想定した実習としては軟部組織の柔軟性がなく、展開をするのに半日以上かかり、その後にようやく手術手技として、除圧やスクリューの挿入などの手技が始まるものでありました。生体を再現した手術の状況とは乖離していました。そのため、私も新しい術式の習得のために、より生体に近いキャダバートレーニングを求め、2泊4日弾丸ツアーでタイやオーストラリアへ行きました。解剖実習時間より移動時間の方が長く、紛争やデモによりキャダバーツアーが中止となることもありました。またトレーニングにはより生体に近い状態が望ましいのですが、ご献体の柔軟性を重視するがゆえに、海外でのフローズンキャダバー（凍結保存の献体）では感染の可能性が高い問題がありました。しかし近年は、ご遺体の固定法の進化により、コスト面での問題はありますが、日本においてThiel法（シール法）による固定が行われるようになりました。Thiel法固定のご遺体はフローズンキャダバーに近く、さらに感染にも有効であるため手術手技鍛錬のための実習に適しており、生体に近い状態でのトレーニングが可能です。実際に私が初めてThiel法のご献体へ触れることができた際、『生体に近い』、『海外でのフローズンキャダバーと同じ』と感じました。骨や硬膜管もホルマリン固定には比べられないほど、より生体に近い状態で、さらに感染に対しての安全性も向上していました。また日本においても海外のように専門のトレーニングセンターの開設が特区構想の一つとして始まりました。

ご献体いただく方々、志ある医師、 大学、企業などの協力に支えられて

私は、所属大学で手術手技鍛錬のため解剖実習の開催を担当したことがありました。Thiel法で固定されたご遺体を使用させていただき、さらに実際の手術に近い状況を再現するために、電気メスや吸引管、開創器、ノミ、ハンマー、パンチに至る器械を準備した経験がありますが、キャダバートレーニングで使用できる器械が少なく、苦労した経験があります。もちろん手術台、無影灯やC-armはありません。脊椎器械メーカー、ディーラーの方々に協力いただき、本院の医局に残っている古い器械を貸してもらい、解剖をしました。Thiel法固定での状態のよいご献体を用いることはできましたが、実際の手術に近い環境をハード面で再現することが非常に難しく、改めて多くの協力で成り立つことを実感したことを思い出します。

札幌と名古屋の講習を通して、キャダバートレーニングは海外と違い、特に営利目的ではないため、多くの方々の尽力があり、様々な制約を乗り越えて国民の健康、安全のために行われていることを実感しました。私なりの考えですが、手術手技のための解剖が、日本で根付かない理由は、日本人の宗教観にあると考えています。海外とは異なり、古くから日本人は死後もご遺体に魂が残ると考えると聞いたことがあるからです。特に、日本において系統解剖は可能ですが、キャダバートレーニングのためのご献体に抵抗があるのは、死去してから再度手術を受けることになるという印象を抱かれるからではないでしょうか。しかし、今回の実習で、ご献体者より、最新医療技術発展のためのご献体にご理解とご協力をいただけたとうかがい、非常に安心して実習を行うことができました。ご献体いただく方のご厚意と解剖学教室の先生方のご協力、そしてご遺体固定法の進化により、日本において安心して手術手技の鍛錬をすることができます。この手術手技鍛錬のための解剖実習がさらに拡大し、日本で可能になることは我々医療従事者が、患者さんへ安全で適切な方法と手技を提供するためには必要なことであります。さらに我々は手術技術の修練に励み、国民に安全な医療を提供する義務があると考えます。


XLIFコースご参加の後、講師の先生とともに

最後に、このような大変貴重な機会に恵まれ、二度も参加させていただき、ご献体いただいた皆さま、札幌医科大学、名古屋市立大学、メリジャパン、協賛いただいたメーカー各社の方々に深く感謝申し上げます。